

組合 Q & A

経営資源補完型の組合とは？

スケールメリット追求型から経営資源補完型へと組合のあり方が変化していると聞いた。どうということなのか

経営資源補完型の組合は、おとしの「桃太郎」をイメージして下さい。

鬼ヶ島の鬼を退治するために、桃太郎は戦いに必要なものを集めます。先ず、おばあさんからキビ団子をもらいます。そのキビ団子が欲しくてサル、キジ、犬が協力を申し出ます。これら得意分野の違いに勝ちます。経営資源補完型の組合とは、「桃太郎」の嘶のように異なる能力を持つ者が団結して相互に協力し合う組合のことです。

経営資源補完型の組合が、注目されている理由は、大量生産・大量消費の時代が終わったことにあります。

市場の変化へのスピーディな対応が要求される今日、規模の大き

さは邪魔になります。いわゆる「大企業病」の弊害を露呈することになるからです。

中小企業はスピーディな動きは得意ですが、経営資源が不足しがちです。「人」「モノ」「金」「情報」「技術」などをすぐに用意できない欠点を抱えています。そこで、経営資源をお互いに補完し合うタイプの組合が注目されるようになりました。

重要なのは、システムを統括する桃太郎です。桃太郎がキビ団子という報酬に責任を持たなければ、サルもキジも犬もともに働くわけがありません。利口なサル、空中戦のキジ、足元に噛み付く犬の絶妙なバランスが大事です。

異業種が互いの「強み」を出し合うことがポイントです。犬は空を飛ばませんが、それは「弱み」ではありません。犬に期待されているのは、足元に噛み付くことです。それぞれが「強み」を持っていて、その強みを活かして自立していることが条件です。「あいつなら何とかしてくれるはずだ」という自他ともに認める「強み」を持つ者にだけ、経営資源補完型の組合の構成員になる資格が与えられ

るのです。

ある大企業の下請企業が組合を組織して親企業の発注する仕事の窓口業務を行っています。親企業の資材部にとっては、組合がすべてを仕切ってくれるので大助かりです。しかし、長年の間に受注が既得権化し、企業努力がおろそかにされるようになりました。強みが錆びついてきたのです。

危機感を抱いた組合では、経営資源補完型の組合として再生するための勉強会を始めました。専務理事は、組合員の後継者に期待したいと意気込んでいます。

ポイント

- ★ 経営資源補完型とは桃太郎のイメージ
- ★ メンバーの「強み」を共有する

中小企業組合理事のための Q & A

「清水透著・2010年5月25日（新訂）第1版第1刷発行」より転載。

◇ 中小企業組合理事のための Q & A（新訂）

清水透 著
四六版・276頁 定価1,575円
（本体1,500円＋税）送料別

◎ご購入のお申込みは本会総務部まで
（Tel 043・306・3281）

今年度から「官公需情報ポータルサイト」のURLが変更されております。

「官公需情報ポータルサイト」は、国や独立行政法人、地方公共団体などがインターネット上で提供している入札情報を、利用者のニーズに応じて簡易に検索・閲覧することができるものです。

操作も簡単です。実際にアクセスしてみると、チェックボックスから「物品」「工事」「役務」といった受注内容を選択し、地域別、発注機関別など、任意にソートするだけで結果が一覧で表示されます。また、フリーワード検索により、検索対象を特定するなど、更に絞り込むことが可能です。

サイト利用料は一切不要。面倒な会員登録などもありませんので、発注情報の一括検索にぜひお役立て下さい。

官公需情報ポータルサイト：<http://kankouju.go.jp/>

◎入札情報に関する個別の内容については、各発注機関に直接お問い合わせ下さい。